

鮎川の宝物を 泊まられた方々へ 伝えたい

さいとう まいみ 齋藤 舞美 さん

民宿みなみ荘 女将

昭和55年、宮城県石巻市生まれ。
民宿で女将業をこなすかたわら、
鯨のお腹が魚の耳石でいっぱいになるという話を聞いて耳石に興味湧き、
耳石を使ったアクセサリー作りも行っています。

外国人ハイカーの方が宿泊後にネットへ口コミを投稿した中に「みちのく潮風トレイル」とあり、調べたところ宿の周辺がルートになっていることを知りました。それからはハイカーの方々が歩いてきたお話を聞くたびに、私も行った気分になり、歩く楽しみを知りました。

ある日、宿泊した方に、一(いち)の鳥居という大きな鳥居が鮎川浜にあると教えていただき、金華山への渡船や、鮎川浜の歴史について興味を持ちました。金華山が女人禁制だった時代に、本土側で参拝していた方々が休憩できる茶屋があり、私の義理の祖母を含む地元の女性陣が、当時鮎川浜で獲れていた天草で寒天やみつまめを作り、売っていた記録を見つけました。

義理の祖母は商売が好きで、民宿を営む前は駄菓子屋と食堂を営んでいました。我が家のモットーは「新しいことに挑戦していこう、自分でできるといったことはやっぴい」とで、私もその意志を受け継ぎ、茶屋で出していたという寒天作り挑戦したり、魚の耳石でアクセサリーを作ったりと、地域の宝物を使って形にすることを楽しんでいます。最近は、旅の思い出を書き込めるノートも置き始めました。今度は鮎川浜に眠る古道探しと、みちのく潮風トレイルサポーターズに登録したいと思っています。

外国人ハイカーからSNSのメッセージ機能で事前に宿泊についてご相談をいただく場合は、じっくり読んでから答えられるので大変助かっています。食事付きプランを選ばれる方が多く、普段は鯨の町ならではの料理を出すことが多いですが、ヴィーガン・ベジタリアンの方々へ提供する食事を勉強することもあります。

これからも地域の宝を伝えて、泊まられた方々に鮎川浜の奥深い魅力を感じてもらいたいです。



ギスという魚の耳石を使ったアクセサリー。
ほかにはタナゴやアンコウ、ドクロなど多様な魚の耳石を
キーホルダーやイヤリングなどに加工されています。
また、料理のみならず、宿の至るところに鯨グッズが並び置かれています。
訪れた際はぜひチェックしてみてください。

